

■推古天皇 すいこてんのう	33代天皇。初の女帝。蘇我馬子による政変で即位し、聖徳太子を摂政に治世。生没年が確実な最古の人物。
554＝	欽明天皇の皇女に生まれ、額田部王女と呼ばれる。母は大臣蘇我稲目の女の堅塩媛。同母兄に大兄皇子(のちの用明天皇)がいる。
563＝	9歳：
571＝17歳：	異母兄に当る敏達の妃となった。欽明天皇が没し、
572＝	18歳：敏達天皇が即位。
575＝21歳：	敏達の正妃である大后の広姫が崩じたことから、
576＝22歳：	大后となり、大后の地位に付属する領有民として私部を置く。
581＝	27歳：
585＝31歳：	敏達天皇の死後、その系譜上の位置から、皇族中の長老的存在として君臨するようになる。
586＝32歳：	殯宮に籠るうち、皇位を狙う異母弟の穴穗部皇子に暴行されそうなる事件が起きた。これは、皇女の配偶者となることが皇位継承上有利な条件であったことを示すものであろう。
丁未の変・・	587＝33歳：敏達の後を継いだ用明が在位僅か1年7カ月で崩じると、政局は次期天皇をめぐり混乱の度を深めるなか、自らの詔により、大臣蘇我馬子が穴穗部皇子とその党類を殺害し、さらに物部守屋を打倒して、穴穗部の同母弟泊瀬部を崇峻天皇として即位させたが、崇峻が資質人格の点で支配層の支持を得られず、
・・・・・	588＝34歳：飛鳥寺の建立始まる。
590＝	36歳：
591＝37歳：	ようやく父敏達天皇が磯長陵に葬られる。
推古天皇・・	592＝38歳：*蘇我馬子が刺客を送って暗殺すると、遂に皇位が巡ってき、飛鳥豊浦宮で初の女帝として即位。
聖徳太子摂政	593＝39歳：*甥の聖徳太子(用明天皇皇子)を摂政として、これに万機をゆだねた。
仏教興隆の詔	594＝40歳：大陸では隋帝国が南北朝を統一して、東アジアに重大な脅威を与えるようになり、朝鮮半島では新羅が国力を強化して、日本のいわゆる任那復興の政策をますます困難にしつつあった。推古・厩戸・馬子の3人を中心に推し進められた推古朝政治の課題は、対外的には、任那復興問題を軸に朝鮮3国における“東夷の小帝国”としての倭国の立場を確立することであり、服制・儀礼の整備などの成果。池溝開発とそれに伴う屯倉の設置や、「難波より京に至る大道」といった外交用の道路の設定が行なわれたのもこの時期である。
・・・・・	596＝42歳：飛鳥寺竣工。
・・・・・	599＝45歳：
遣隋使始・・	600＝46歳：初めて遣隋使を派遣、
冠位十二階・・	603＝49歳：「冠位十二階」の制定。小墾田宮に遷り、ここを皇居と定めた。
十七条憲法・・	604＝50歳：「十七条憲法」の作成、初めて暦を用いる。
・・・・・	606＝52歳：聖徳太子から「勝鬘經」の講義を受ける。
小野妹子国書	607＝53歳：第二次遣唐使派遣(翌年帰国)。
遣隋使3・・	608＝54歳：第三次遣唐使派遣(翌年帰国)。
遣隋使4・・	610＝56歳：第四次遣唐使。
・・・・・	612＝58歳：羽田で薬佩をする。
遣隋使5・・	614＝60歳：第五次遣唐使。
・・・・・	617＝63歳：
天皇記+国記	620＝66歳：「天皇記」「国記」以下の国史の編纂などの注目すべき政策が行われ、また飛鳥文化と呼ばれる仏教的色彩の濃い高度な貴族文化が、この時期から大和の飛鳥地方を中心に展開しはじめたことが特徴的である。
聖徳太子没・・	622＝68歳：*太子が世を去ると、天皇がみずから政治をみたと思われるが、馬子との協調関係に破綻が兆し、
・・・・・	625＝71歳：馬子による葛城県返還要求を推古が拒絶したとの物語は、それを暗示している。
蘇我馬子没・・	626＝72歳：馬子が死んで子の蝦夷が大臣となってまもなく、
推古天皇没・・	628＝74歳：次期天皇について田村皇子と山背大兄王に遺詔、次いで早逝した我が子竹田との合葬を望んで、没した。